

## 沖合底びき網漁業における資本投資の経済性分析

### 背景と目的

全国的に厳しい経営状況にある沖合底びき網漁業を対象に、地域ごとの漁業経営特性に基づいて、資本投資の経済性分析を行う。

トン数規模が比較的大きく、全国的に分布している二艘(そう)びき(75~125トン)を取り上げ、その主要県(岩手、愛媛、島根、山口)すべてを調査対象とする。

### 成 果

1. 資本投資の経済性指標は、固定資本に対する償却前営業利益の比率(「営業利益の比」)を用いた。資本投資の経済性は、前期(1995~1997年)と後期(1998~2000年)に区分して比較した(表1)。
2. 岩手県: 漁売上高に対する漁具・船具費の比率(「漁具・船具費の比」)が低く、「営業利益の比」は前期・後期とも4県の中で一番高い。
3. 愛媛県: 4県の中で唯一、125トンと大型船であるため、漁売上高に対する燃油費の比率(「燃油費の比」)が高く、「営業利益の比」が一番低くなった。
4. 島根県: 後期は、近距離漁場の浜田沖での操業頻度が高まったために「燃油費の比」の増加率が最も低くなり、後期の「営業利益の比」は二番目に高くなった。
5. 山口県: 漁売上高が前期・後期とも一番高いが、瀬びき操業の破網により「漁具・船具費の比」が高く、後期の「営業利益の比」は三番目になった。

表1. 4県の沖合底びき網漁業(二艘びき)における漁労体あたりの投資経済性比較

区 分	岩手県		愛媛県		島根県		山口県	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
漁売上高(千円)	278,823	296,275	276,522	239,533	209,425	259,404	302,061	297,126
漁労原価/漁売上高(%)	83.9	81.4	80.1	84.1	82.3	82.6	80.2	82.0
労務費/漁売上高(%)	38.3	37.5	42.1	37.4	45.1	41.7	37.7	35.9
漁具・船具費/漁売上高(%)	7.1	4.8	8.6	9.5	7.1	7.2	7.9	8.6
燃油費/漁売上高(%)	13.0	12.3	15.0	17.1	12.5	12.6	12.2	13.7
減価償却費/漁売上高(%)	10.7	5.5	0.9	2.9	2.9	2.8	4.8	3.0
一般管理費/漁売上高(%)	11.1	9.3	15.7	20.8	11.1	11.2	8.9	8.0
償却前売上総利益/漁売上高(%)	28.6	25.8	20.8	21.5	19.9	21.7	24.2	21.0
平均船齢	5.6	8.6	8.3	10.8	12.4	15.1	7.9	10.2
乗組員数/1隻(人)	9.6	8.9	9.1	8.7	8.7	9.0	10.7	10.2
労務費/乗組員(千円)	5,507	6,300	6,359	5,139	5,420	5,966	5,317	5,253
償却前営業利益/固定資本	0.80	0.89	-0.07	-0.13	0.36	0.48	0.53	0.39

・労務費は、邦人の給与とその他労務費の計。

・固定資本は、船価/20年+漁具・船具費の計。

減価償却期間を超えた船があり、低金利であることから、固定資本に支払利息を加算しなかった。

### 波及効果

漁船建造計画時のトン数規模や機関馬力等の検討に活用できる。

問い合わせ先: 水産経済部 国際漁業政策研究員(松浦)